

2023年度 学校評価(自己評価)

◆ICT を活用する教養教育の実現

ICT を活用した教育のデジタル化を推進し、従来からの教養教育を充実しています。中学部では全員パーソナルコンピュータ必携化に取り組み 2024 年度からは高校においても順次、コンピュータの必携化に取り組みます。高校では各教科での探究活動や統計・プログラミング学習にもとづいたデータサイエンスなど新しい時代にふさわしい学びを創造しました。

◆文理を融合しグローバルな視点をもった多様な学びの空間の確立

各教科や総合的な探究の時間等において文理を融合したグローバルな課題に取り組む探究的な学習を推進しています。また新型コロナ感染拡大で中断していた国際交流も、ニュージーランド夏・春短期研修を始め、バンクーバー夏期語学研修旅行、ドイツ、フランス、中国との国際活動を展開しています。また、部活動やプロジェクト活動等、教科外活動を活性化し、これらの取り組みを通してグローバルな視点を持った多様な学びの空間を確立しています。

◆キャリアデザイン教育の推進

高等学院の特色を生かしたキャリアデザイン教育に取り組んでいます。学部モデル授業の実施、学院OB などによる学部説明会などを始め、すべての学院生を対象にした学部説明会なども実施しました。学院生が進学後も各学部・各分野で活躍できるよう中高大一貫教育を見据えたキャリアデザイン教育を推進しています。

2023年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

今後の高等学院および高等学院中学部の教育をより良くするため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施しています。次に質問項目、アンケート結果の分析と改善点等を述べます。

【質問項目】

I 学校全体の取り組みについて

I-1. 高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている

I-2. 高等学院は中学・高校と大学との連携に努めている

I-3. 高等学院は国際交流の推進に努めている

II 学習指導について

II-1. 指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている

II-2. 生徒の進度やレベルに合った授業が行われている

II-3. 生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている

II-4. 適切な評価が行われている

III 生徒指導について（Ⅲ-4:生徒は高校のみ）

Ⅲ-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている

Ⅲ-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている

Ⅲ-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている

Ⅲ-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている

IV クラブ活動について

IV-1. 生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている

IV-2. 部長(顧問)は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている

IV-3. 部長(顧問)は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している

V 授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

V-1. 私は授業に積極的に取り組んでいる

V-2. 私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている

V-3. 私は授業時間以外にも積極的に取り組んでいるものがある

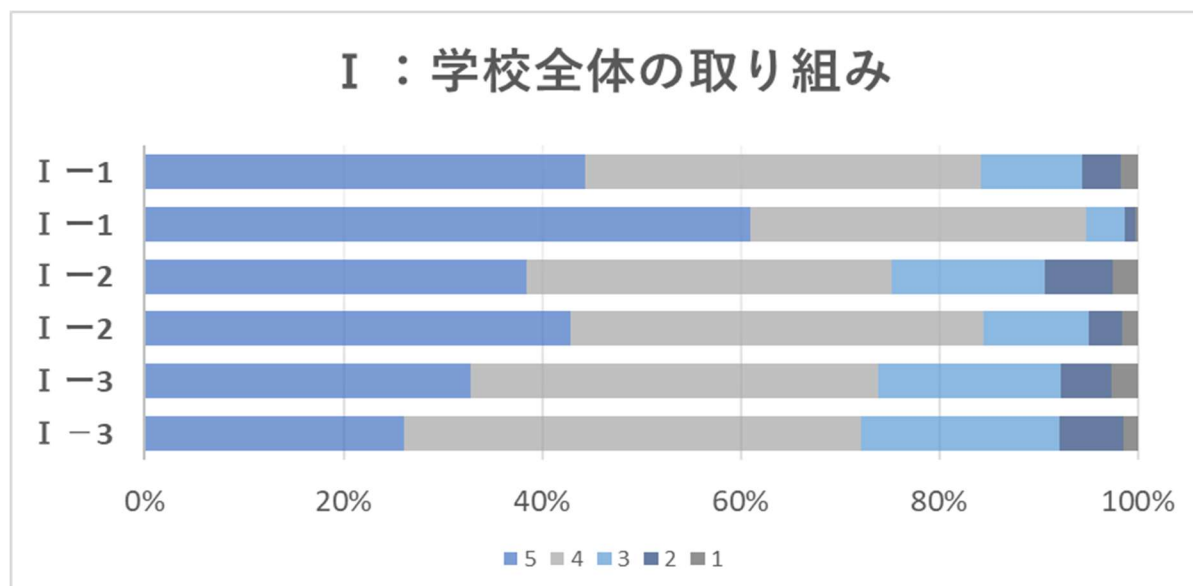
VI その他

VI-1. 高等学院は生徒の安全面に配慮し、施設安全、交通安全、災害対応、不審者対応等の対策と環境整備を行っている。

【アンケート結果の分析と改善点等】

I 学校全体の取り組みについて

(各項目 グラフ上段:中高学院生, 下段:保護者)



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

○質問項目 I-1.「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」

本項目については、肯定的な意見の比率は高く、本校の目指す教育理念が保護者・生徒とも共有されている。生徒・保護者とも肯定的割合は例年とほぼ同じであり、中高生ともに自主性・自立性の育成に取り組んでいると言える。

○質問項目 I-2.「中学・高校と大学との連携の推進に努めている」

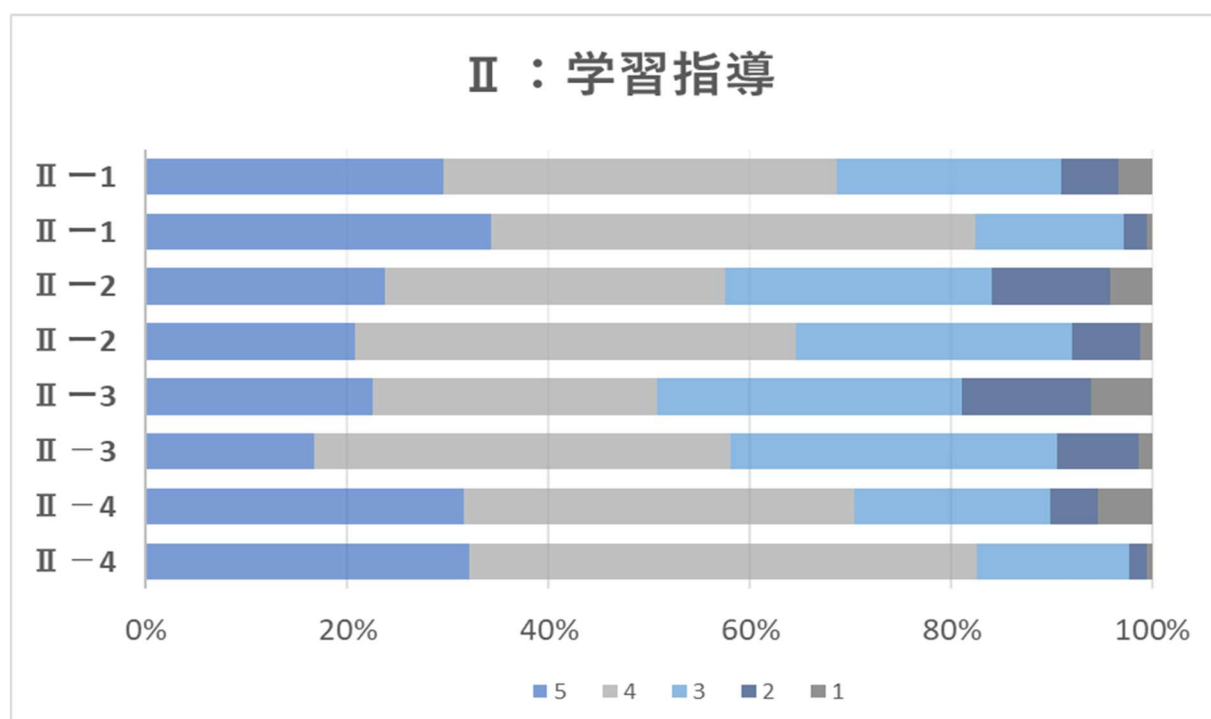
中高大連携の実践についての取り組みは、高等学院の特徴でもあり生徒・保護者ともに理解され浸透していると言える。今年度は生徒が4ポイント、保護者が3ポイントアップした。

○質問項目 I-3.「国際交流の推進に努めている」

高等学院の国際交流が新型コロナウイルス感染拡大以前に戻りつつある。今年度はニュージーランド夏・春短期研修を始め、バンクーバー夏期語学研修旅行、ドイツ、フランス、中国との国際活動も復活し、スーパーグローバルスクール(SGH)の経験などを踏まえた国際交流を推進しており、引き続き、保護者・生徒からの期待が高い。今年度は生徒が8ポイント、保護者が13ポイントアップした。

Ⅱ 学習指導について

(各項目 グラフ上段:中高学院生, 下段:保護者)



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

○質問項目Ⅱ－1.「指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている」

肯定的な意見はほぼ例年並みの数値であり、保護者・生徒ともポイントは高い。引き続き、指導方法を工夫し、授業の質の向上に努めていく必要がある。

○質問項目Ⅱ－2.「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」

中学・高校とも肯定的意見の割合はほぼ同じである。引き続き、個に応じたきめ細かい指導が重要である。

○質問項目Ⅱ－3.「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」

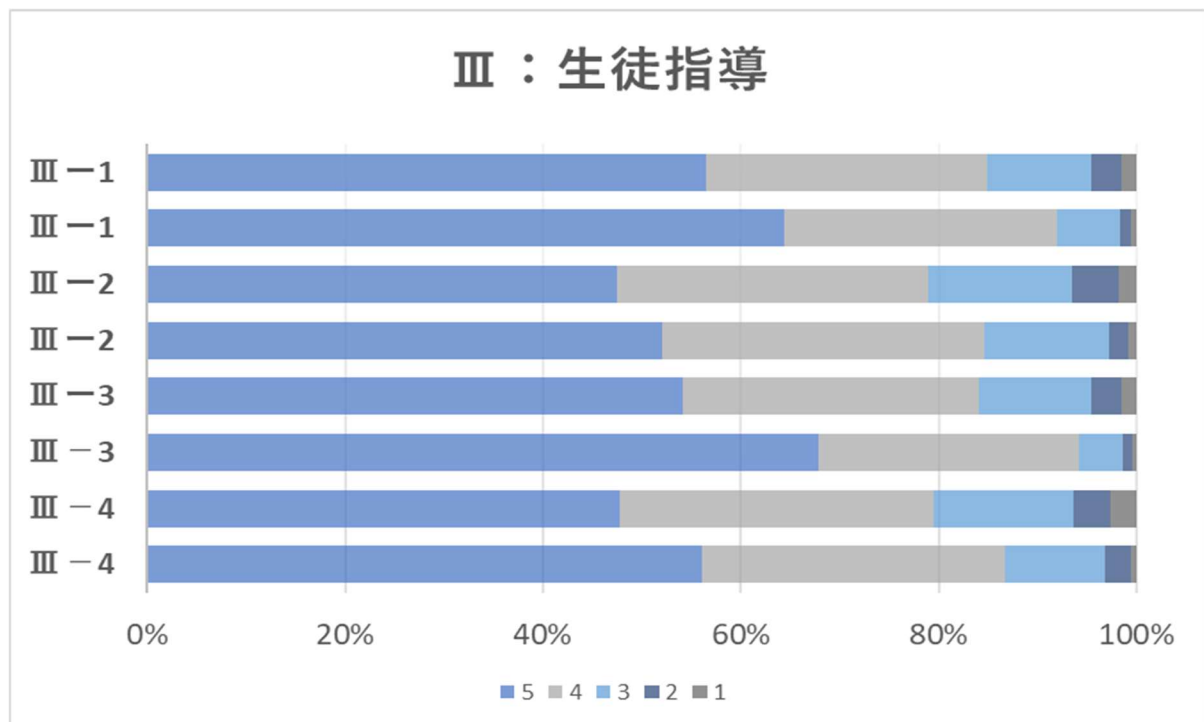
例年も同様であるが、前項目と比較すると、高校においては「どちらともいえない」のポイントが高い。多様な生徒達に対して、引き続き、各教員による授業の質の向上への努力が求められる。

○質問項目Ⅱ－4.「適切な評価が行われている」

生徒に対する評価は非常に難しい。結果として概ね、生徒・保護者とも「肯定的な意見」は多いが、適切な評価を実現させるため、今後ともより一層の改善に努める必要がある。

Ⅲ 生徒指導について

(各項目 グラフ上段:中高学院生, 下段:保護者)



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

○質問項目Ⅲ-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている

○質問項目Ⅲ-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている

○質問項目Ⅲ-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている

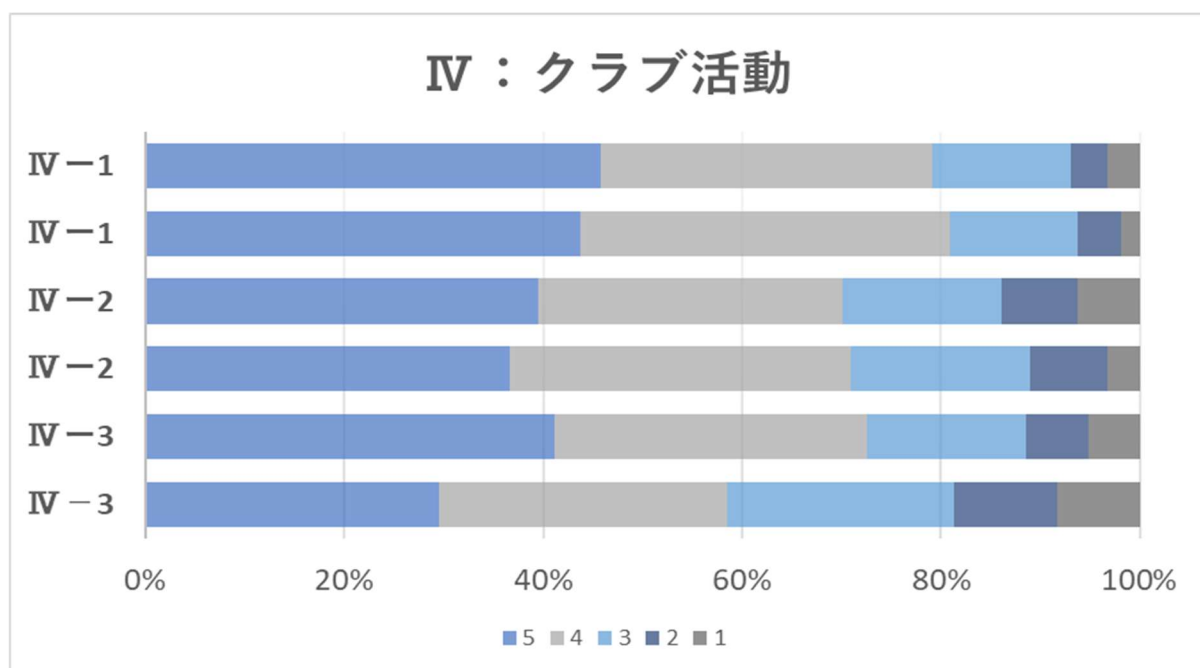
昨年度とのポイント数の若干の変動は見られるものの、以上の3項目において「そう思う」が最も多い回答になっており、昨年と同様に、保護者・生徒ともに高評価が得られている。引き続き、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢を適切に実施していきたい。

○質問項目Ⅲ-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し適切に進路指導を行っている

進学指導については、従来実施している学部説明会やモデル講義など実施した。特に今年度からはモデル講義・キャリアプラン講義を2年生を対象にし、早い段階から学部・学科進学の意識づけを行い、ミスマッチのない学部進学を含めたキャリアプランニング教育を推進している。

Ⅳ クラブ活動について

(各項目 グラフ上段:中高校院生, 下段:保護者)



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

○質問項目Ⅳ－１.「生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている」

○質問項目Ⅳ－２.「部長(顧問)は部員とコミュニケーションを取り, 生徒の把握に努めている」

○質問項目Ⅳ－３.「部長(顧問)は部活動の内容について, 生徒へ適切に情報を提供している」

質問項目Ⅳ－３:「そう思う」「ややそう思う」の昨年度のポイントが 4.2 ポイントが下がってはいるが、概ね各質問項目について、保護者・生徒ともに「そう思う」「ややそう思う」において高いポイントである。

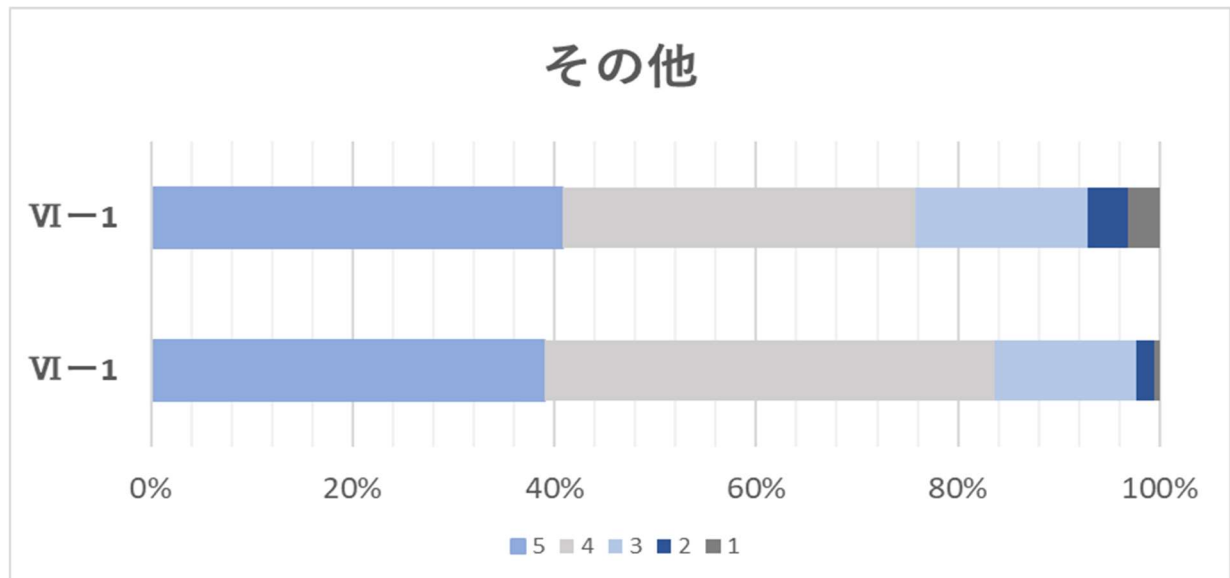
高等学院では、学業だけでなく、部活動も学校の大きな柱の一つである。それゆえ、各活動においては事故やけがなどの防止に心がけ、常に生徒の安全確保を最優先する必要がある。

また、部長(顧問)と生徒との間のコミュニケーションも重要性であり、この項目も肯定的な割合が高い。今後ともより一層、部長(顧問)とともに生徒・保護者への情報提供も含め、連携を密にし、よりよい部活動を推進して行きたい。

VI その他

(項目 グラフ上段:中高学院生, 下段:保護者)

VI-1 質問項目 高等学院は生徒の安全面に配慮し, 施設安全, 交通安全, 災害対応, 不審者対応等の対策と環境整備を行っている。



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

保護者・学院生とも「ややそう思う」の割合が「そう思う」よりも高い。高等学院として, 学校内外の生徒の安全確保は最優先事項である。キャンパス内施設の点検, 生徒の登下校の交通安全対策, 大地震に対する備蓄倉庫の整備等の災害対応, 不審者対応の防犯・防災訓練の実施等を毎年実施している。安全に対する対応を引き続き徹底して行きたい。

以 上